

小牧野遺跡について

た所に、縄文の学び舎・小牧野館があります。ここは、遺跡の出土品の展示や保管、遺跡に関する情報発信をしています。たくさんのお土産が飾られておりとても素敵な場所です。

(文責 増井優心)

4道県で構成される縄文遺跡群を發達させていくことを具体的に示しています。

縄文遺跡群の特徴を整理すると3つあり目は、

一つ目は、墓や貝塚、盛り土、土偶などは、祖先や自然を敬う心、豊穡への祈りなど人々の精神文化を明瞭に示しています。

二つ目は、人々が食料を安定的に確保するため山地、丘陵、内湾や湖沼の沿岸、河川付近に集落を作りその環境に応じて技術や道具

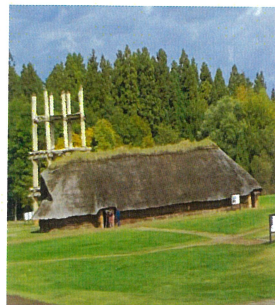
三つ目は、一万年以上続いた生活のなかで気候変動・火山噴火などの環境変化や社会のあり方に応じて人々が集落の形を変えてきたことを具体的に示しています。

こうした観点から、北海道・北東半縄文遺跡群はともにも価値のある遺跡だといえます。

（文責 古川琥生・西川航平）

発行日 令和3年10月28日
 発行者 2年1組2班
 古川琥生 日高翔太
 谷口太一 西川航平
 齋藤柊之介 藤本都
 吉田奈央 増井優心

三内丸山遺跡は青森県青森市にある縄文時代前期から中期にかけてできた遺跡です。遺跡は平成4年からの発掘調査で、大規模な集落跡が見つかりました。遺跡からは、竪穴建物跡や掘立柱建物跡などのほかに、多量の柱建物跡、土器、貴重な木製品、骨角製品などが出土しました。竪穴建物跡はこれまで550棟以上発見され、復元されています。また、土坑墓は約500基埋設、土器も800基以上見つかっています。それ以外にも、大量の土器や石器、土偶やヒスイの玉などが土と一緒に捨てられた場所の発掘時の様子を見られる南盛土や、縄文時代前期のもので、長さ15mある大型竪穴建物跡の発掘調査のときの様子を見るのができる場所や、柱穴が直径・深さとも約2mで、ほかに建物跡と比べて規模が大きい大型掘立柱建物跡も見学することができます。青森県は遺跡の重要性から平成6年に保存を決定しました。平成7年からは遺跡の整備と公開を行い、平成9年には史跡に指定され、平成12年には特別史跡に、平成15年には出土品1958点が重要文化財に指定されました。また、令和3年7月には、三内丸山遺跡を含む「北海道・東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。



縄文時代の
「食」

私は小牧野遺跡について説明します。まず一つ目は、ストーンサークルについてです。環状列石ともよばれ、北海道と東北北で同じ時代に作られた、主に儀式をする場所です。小牧野遺跡には、ほかの場所とは少し違う特徴があります。それは石の並べ方です。ふつうは石をただ横に並べていくのですが、ここでは、楕円形の石と平らな石を組み合わせて石垣（いしがき）のようにし、立体的に並べています。とても珍しい方法です。これらも儀式に使ったと考えられています。高い場所に多くの人が集まって、祈ったり、踊ったりしていたのかも知れません。二つ目は、どうやって石を運んだかという事です。背負具（せおぎ）や、モッコ、轎（こし）の3つの運搬具を用いて、石の採取地である荒川との間に設定した2つの運搬路で間に設けた実験によると、10キログラムほどの石を載せた背負はしごでは、距離にして400メートル弱、勾配15度の急斜面を15分で登ることができたということです。

今回の事を学び、現代みたいにクレン・車があるのではなく、自分の知恵と力で作っていたのが凄いいと思いました。



縄文時代の人々が食べていたものには、現代の人々も食べるようなものがたくさんあります。縄文時代は、主に植物採集、狩猟、漁撈の3つの活動によって食物を得ていたと考えられています。植物採集ではクリやクルミ、ドングリ類など様々なものを採集していました。これらの植物は縄文時代の遺跡から発見されています。ドングリ類などそのまま食べることができないものは、水にさらしたり、「縄文土器」で煮たりしてアクリをぬいていました。狩りでは、シカやイノシシなど60種類以上の動物をとって食べていました。狩りは主に弓矢を使用して行われていたことが分かっています。しかし、狩りは動物をとれる時と、とれない時があるため、あまり安定して食料を得ることができませんでした。そこで、重要だったのは「魚」です。魚は一年を通じて、毎回ほぼ確実に一定の量をとることができま

す。地域によってとれる魚は異なります。合わせて70種類以上の魚が食べられていたと考えられています。魚は釣りやモリでついたり、網を使ったりしてとっていました。今でもよく食べるマグロやまぐり、カツオなどもとられていました。(文責 藤本都)

亀ヶ岡遺跡

私たちは今回三内丸山遺跡と小牧野遺跡に行ってきました。私は縄文遺跡に興味を持ちました。その中でも青森県の遺跡について調べてみようと思いました。そして今回は青森県つがる市にある集落の遺跡亀ヶ岡石器時代遺跡について調べてみました。この遺跡では遮光器土偶が出土した遺跡として知られ1944年（昭和19年）6月26日に国の史跡に指定されました。1622年に津軽藩二代目藩主の津軽信枚がこの地に亀ヶ岡城を築こうとした際、土偶や土器が出土したことから発見されました。なお、亀ヶ岡城の築城は一国一城令が出たために中断されています。新しい土器が出てきてほしいです。私はまた新しい土器が見てみたいです。（文責 齋藤柊之介）

でいた三内丸山遺跡は青森県に住んでいて、縄文時代の人々が、世代を超えて17,000年もの間生活してきた場所です。そこは、なまつと野球場9個分の広さがあります。が三内丸山遺跡には他の遺跡と違うところがあります。それは縄文時代に造られた建物の柱が見つかったことです。その柱は直径1メートルもあり、この柱は日本でも最も大きいそうです。そして見つけた柱から昔はどのような建物が建っていたかを想像して建てられた物は、とても大きく重機などがないその時代では造れないと思いました。ですがもし本当にあのようなものをつくっていたのならとても凄いくらいだと思います。僕はあまり歴史に触れたことがありませんでした。ですが、今回の校外学習を通して青森県に残る素晴らしい歴史に触れることができました。

(文責 谷口太一)



編集後記

北海道・北東北縄文遺跡群の遺跡で数多くの発見されたもの。また、建造物を復元したものやそのまゝの状態で管理されているものもある。三内丸山遺跡では子供の墓と大人の墓を別々のところに埋めていることがわかりました。また、当時何を食べていたのか、土器などがどのように使っていたのかがわかりました。この二つの遺跡では、貴重なことがたくさんわかっていきます。これなくとも大事に保管して欲しいなと思います。

(文責 古川琥生)

(文責 古川琥生)